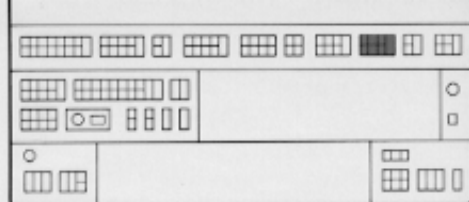
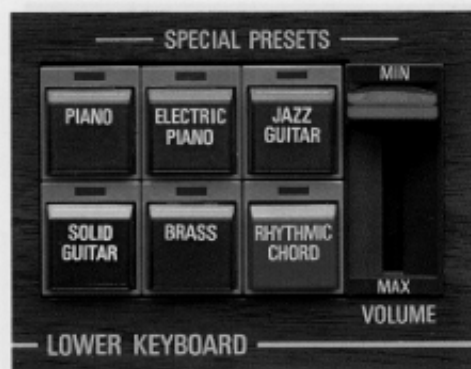


8. 自動伴奏を楽しみましょう

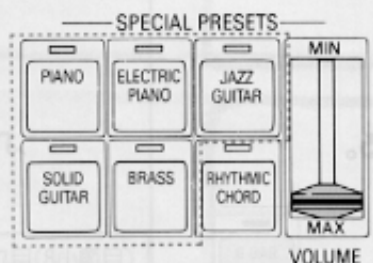


リズムコード

下鍵盤のスペシャルプリセット音色がオートリズムに合わせて自動的にきざれます。

1 下鍵盤のスペシャルプリセットの音色と音量をセット。

音色をひとつ選ぶ。(アンサンブルのロウ・スベシャルもON。)



2 リズムコードのボタンを入れる。



次に説明するオートベース/コードでも使ってみよう。

3 オートリズムをセットし、スタートさせる。

リズムパターンを選び、ボリューム、テンポなどをセットしたうえで、リズムをスタートさせてください。(16、17ページを参照)

4 下鍵盤をおさえてみましょう。

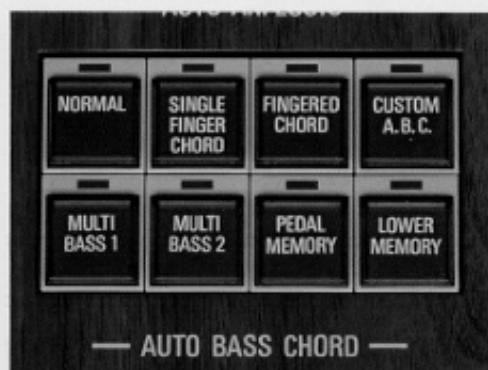


下鍵盤をおさえつけるだけで、スペシャルプリセットの音色がリズムに合わせてきざれます。

ほかの音色、リズムパターンを選んで、聴きくらべてください。

次のステップへ進みましょう

- リズムコードはリズムに連動していますから、必ずオートリズムをセットしてください。
- シンクロススタートを使えば、リズムコードの伴奏とリズムを同時にスタートさせることができます。
- オートベース/コードのローメモリのボタンを入れると、下鍵盤から指をはなしたあともリズムコードの伴奏がつづきます。(23ページを参照)
- リズムがブレーク/バリエーションまたはオート/バリエーションのパターンに切りかわっている間は、リズムコードのパターンが変化します。



オートベース/コード

下鍵盤とペダル鍵盤の伴奏が自動的にできます。上達に合わせて、シングルフィンガーコード、フィンガードコード、カスタムA.B.C.と3つの使い方ができます。

指1本で自動伴奏(シングルフィンガーコード)

1 シングルフィンガーコードのボタンを入れる。

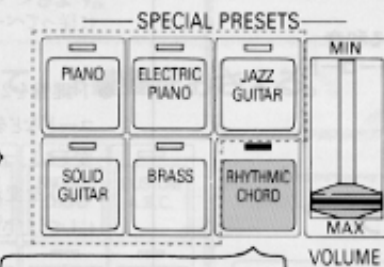
ノーマルは、自動伴奏を使わないときにON。

一番やさしい自動伴奏。



2 和音伴奏の音として、下鍵盤のスペシャルプリセットをセット。

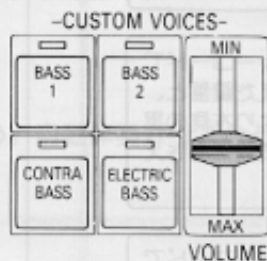
音色をひとつ選ぶ。(アンサンブルのロウ・スベシャルもON。)



リズムコードをON。

3 ベース伴奏の音として、ペダルカスタムボイスをセット。

音色をひとつ選ぶ。



4 オートリズムをセット。

リズムパターンを選び、ボリューム、テンポなどをセットしてください。(16、17ページを参照)

シンクロスタートのボタンを入れておきましょう。



次のステップへ進みましょう

[オートリズムを使わない場合は]

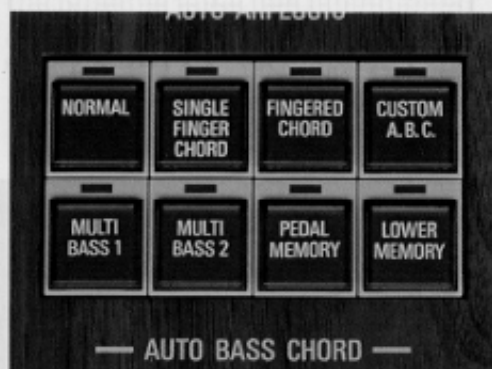
下鍵盤の音：自動的に和音になります。(リズムコードは働きません。)

ペダル鍵盤の音：下鍵盤でおさえた音をもとに、1音が自動的に選ばれます。

●シンクロスタートを使えば、自動伴奏とリズムを同時にスタートさせることができます。

●下鍵盤のコンビネーション/オーケストラとアンサンブルボイスの音色もセットしてみましょう。持続音の和音伴奏としてできます。

●シングルフィンガーコードを使っているときは、アップパー/ロワーカスタムボイスの音色を下鍵盤から出すことはできません。



オートベース/コード

5 下鍵盤をひとつおさえてみましょう。



リズムに合わせて和音伴奏とベース伴奏が自動的にできます。

〔下鍵盤と和音伴奏の関係〕

コードネームが書かれている楽譜で、Cのところはドを、Gのところはソをおさえませ。



下鍵盤でおさえる位置



コードネーム

でてくる和音
(メジャーコード)

いろいろな和音(コード)をだしてみよう。

〔メジャーコード〕

(例) C



下鍵盤をひとつおさえる。(上の図を参照)

〔マイナーコード〕

(例) Am



メジャーコードでおさえた鍵盤と、それより左側の黒鍵を同時におさえる。

〔セブンスコード〕

(例) G7



メジャーコードでおさえた鍵盤と、それより左側の白鍵を同時におさえる。

〔マイナーセブンスコード〕

(例) Gm7



メジャーコードでおさえた鍵盤と、それより左側の黒鍵と白鍵を同時におさえる。

次のステップへ進みましょう

〔シングルフィンガーコードによる自動伴奏〕

下鍵盤の和音伴奏：下鍵盤でおさえた音を根音とする和音がでてきます。リズムコードを使用すると、ロワースペシャルプリセット音色は、リズムに連動した和音となります。

ペダル鍵盤のベース伴奏：下鍵盤で検出された和音をもとにして、自動伴奏されます。

●シングルフィンガーコードでは、下鍵盤のどの音域をおさえても、でてくる自動伴奏の音域は変わりません。

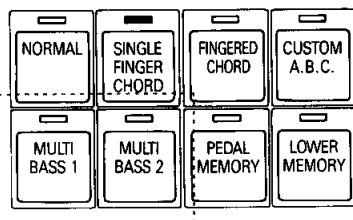
●ペダル鍵盤で自動伴奏をスタートさせることもできます。まず、下鍵盤で伴奏の最初のコードをおさえたあと、シンクロスタートのボタンを入れてください。ペダル鍵盤のいずれかを踏むと、最初の下鍵盤でおさえたコードに従ってベース伴奏がスタートします。

●下鍵盤を2つ以上おさえてマイナーコードやセブンスコードなどをだしているとき、レガートに弾いてコードを変えると、コードが正しく変わらない場合があります。コードを変えるときに、鍵盤からいったん指をはなすようにしてください。

ベース伴奏を変化させてみましょう。

マルチベースをセットして、下鍵盤をおさえる。

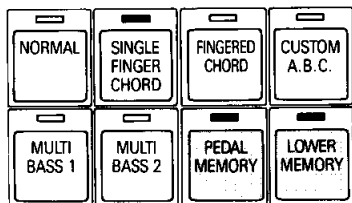
どちらかひとつ選ぶ。



1と2で、ベース伴奏がどのように変化するか聴きくらべてください。また、ほかのリズムパターンを選んでベース伴奏を聴きくらべてみましょう。

鍵盤をはなしても自動伴奏がつづきます。

メモリーをセットして、下鍵盤をおさえる。



ペダル鍵盤のベース伴奏をメモリーします。

下鍵盤の和音伴奏をメモリーします。

下鍵盤から指をはなしてみましょう。自動伴奏がリズムと一緒に鳴りつづけます。

次のステップへ進みましょう

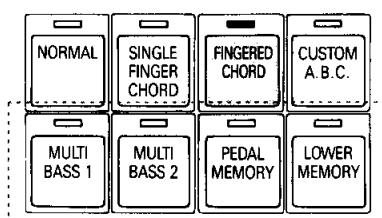
- 根音がくり返すベースパターンにしたいとき：
マルチベース1・2のボタンを両方ともOFFにすると、コードの根音がくり返すパターンになります。
- リズムがブレークバリエーションまたはオートバリエーションに切りかわっている間は、ベース伴奏のパターンが変化します。
- 1と2を同時にONすると、2が優先されます。

- 和音伴奏またはベース伴奏だけメモリーしたいとき：ローメモリーのボタンだけ、またはペダルメモリーのボタンだけを入れてください。ONした方の伴奏だけが、鍵盤をはなしたあとも鳴りつづけます。
- ローメモリーは、オートリズムに連動して働きます。したがって、ノーマルのボタンをONして自動伴奏をキャンセルしても、リズムさえスタートしていれば、下鍵盤の音をメモリーすることができます。

和音をおさえて自動伴奏〔フィンガードコード〕

1 フィンガードコードのボタンを入れる。

おさえたとおりの和音で自動伴奏。



マルチベースとメモリーもセットしてみましょう。

2 下鍵盤とペダル鍵盤の音色をセット。

ロワースペシャルプリセットのリズムックコードもセットしてみましょう。(20、21ページを参照)

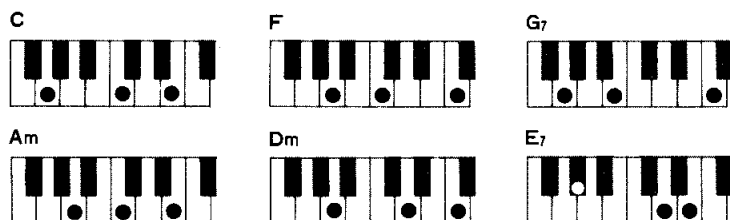
3 オートリズムをセット。

リズムパターンを選び、ボリューム、テンポなどをセットしてください。シンクロスタートを入れると自動伴奏とリズムを同時にスタートさせることができます。(16、17ページを参照)

4 下鍵盤でいろいろな和音をおさえてみましょう。

リズムに合わせて、和音伴奏とベース伴奏が自動的にできます。おさえたとおりの和音で自動伴奏されますから、さまざまな種類のコードで演奏ができます。

〔コードのおさえ方の例〕

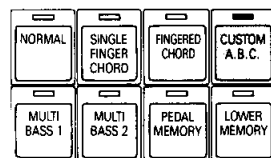


次のステップへ進みましょう

〔カスタムA.B.C.〕

下鍵盤とペダル鍵盤で別々に自動伴奏をだすこともできます。

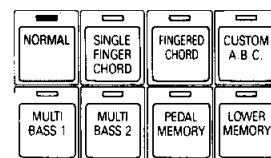
- ① カスタムA.B.C.のボタンをON。(マルチベース、メモリーのボタンも使えます。)



- ② 下鍵盤とペダル鍵盤の音色をセット。
 - ③ オートリズムをセット。
 - ④ 下鍵盤でコードをおさえ、ペダル鍵盤を1音おさえる。
 - ⑤ 和音伴奏：下鍵盤でおさえたコードがそのままできます。
ベース伴奏：ペダル鍵盤でおさえた音にもとづいて、リズムに連動したパターンが自動的にできます。
- ペダル鍵盤でおさえる音は、コードの根音以外の音でも任意に選べますから、より変化に富んだ自動伴奏が可能です。

〔ノーマル〕

ノーマルのボタンをONすると、シングルフィンガーコード、フィンガードコード、カスタムA.B.C.がキャンセルされます。



9. アルペジオ(分散和音)伴奏も楽しめます



オートアルペジオ

リズムに合わせて、華やかな分散和音が自動的にでています。

1 パターンを選ぶ。

6つのうちから、
ひとつをON。



2 音色を選ぶ。



どちらかひとつを
ON。

3 音量をセット。

手前に引くほどアルペ
ジオの音量が大きくな
ります。



オートアルペジオ
を使わないときは、
一番奥にセットし
てください。

4 オートリズムをセットし、 シンクロスタートを入れる。

リズムパターンを選び、ボリューム、
テンポなどをセットしてください。



5 下鍵盤をいくつかおさえてみましょう。

おさえた音をもとにして、分散和音がリズムに合わせてで
てきます。ほかのアルペジオパターンやリズムパターンを選ん
で聴きくらべてください。

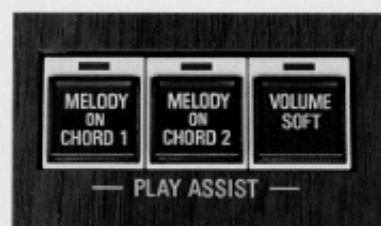
次のステップに進みましょう

(オートベース/コードと一緒に使えます)

オートベース/コードと一緒に使えば、自動的に和
音伴奏ができ、その和音をもとにしてアルペジオ
ができます。また、メモリーを使えば、下鍵盤から
指をはなしたあともアルペジオ伴奏がつづきます。
(21～24ページを参照)

- オートアルペジオはリズムに連動していますから、必ずオ
ートリズムをセットしてください。
- オートアルペジオのパターンは、選んだリズムパターン
によって異なります。
- リズムがブレイク/リエーションのパターンに切りかわ
っている間は、オートアルペジオの音は一時的にスト
ップします。

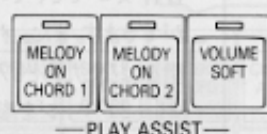
10. メロディーにハーモニーがつけられます



プレイアシスト

上鍵盤のメロディーにハーモニーが自動的に重なり、厚みのあるサウンドが楽しめます。

1 メロディーオンコードのボタンをどちらか入れる。



2音のハーモニーがつ
けられます。

3音のハーモニーがつ
けられます。

2 上鍵盤のコンビネーション/オーケストラ、アンサンブルボイスをセット。



音色を選び、音量をセットしてください。

3 アンサンブルのボタンを入れる。

セットした音色のボタンをON。



— ENSEMBLE —

4 下鍵盤の音色もセット。

お好みの音色をセットしてください。

次のステップへ進みましょう

〔メロディーオンコード1〕

このボタンを選んだときは、最高2音までのハーモニーが上鍵盤からでています。

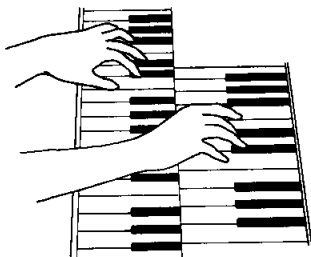
〔メロディーオンコード2〕

このボタンを選んだときは、最高3音までのハーモニーが上鍵盤からでています。

●メロディーオンコードが動くのは、上鍵盤のコンビネーション/オーケストラとアンサンブルボイスの音色です。スペシャルプリセットとカスタムボイスは、メロディーラインを弾く音色としてセットしてください。

●メロディーオンコード1とメロディーオンコード2を同時にONすると、メロディーオンコード2が優先されます。

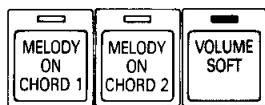
5 下鍵盤で和音をおさえ、上鍵盤でメロディーを弾いてみましょう。



メロディーの下に
ハーモニーが自動
的に重なります。

ハーモニーの音量を小さくできます。

ボリュームソフトのボタンを入れる。



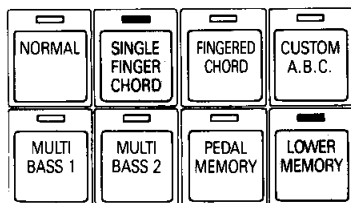
—PLAY ASSIST—

ハーモニーの音を
小さくして、メロ
ディーをはっきり
させたいときに使
います。

オートベース/コードと一緒に使ってみましょう。

オートリズムをセットし、シングルフィンガーコードとメモリーのボタンを入れる。

自動的にでてくる下鍵盤の和
音の音がハーモニーの音とし
てもでできます。



下鍵盤から指をはなしたあと
も和音伴奏と一緒にハーモ
ニーの音がでできます。

次のステップへ進みましょう

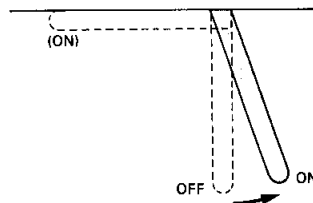
[ニーレバーでコントロールしてみましょう]

- ① メロディーオンコードのボタンと、アッパーコンビネーション/オーケストラ、アッパーアンサンブルボイスの音色などをセット。
- ② プレイアシストのボタンをON。



—KNEE LEVER—

- ③ ニーレバーを立て、演奏を始める。



- ④ 演奏中にハーモニーを加えたいところになったら、ニーレバーを右におす。ニーレバーをおしている間だけハーモニーが付きます。

- 自動的に加わる上鍵盤のハーモニーは、下鍵盤で弾くコードによって決められます。したがって、上鍵盤だけを弾いているときはハーモニーが付きません。
- 上鍵盤の低音域でメロディーを弾くと、ハーモニーの音がでないことがあります。

付属端子と音楽を楽しむエチケット



付属端子

●HEADPHONES(ヘッドホン端子)

ヘッドホンを接続する端子で、ステレオ、モノラルどちらのタイプのヘッドホンでもご使用になれます(本体から出る音はモノラルです)。ヘッドホンを使えば、エレクトーン本体のスピーカーからは音がでなくなりますから、夜間でも周囲への迷惑を気にすることなく、心ゆくまで演奏をお楽しみいただけます。[インピーダンス390Ω]

●AUX.OUT(ライン出力端子)

アンプやトーンキャビネットと接続して、より迫力のあるサウンドをだしたいときに使う端子です。また、テープデッキのLINE-INジャックと接続すれば、エレクトーンの音を録音することができます。[インピーダンス470Ω]

●AUX.IN(ライン入力端子)

ステレオやテープの音をエレクトーンのスピーカーからだしたいときに使う端子です。レコード・テープの音に合わせて演奏することができます。[インピーダンス10KΩ]

●EXP.IN(エクスプレッション連動入力端子)

シンセサイザーやリズムボックスなどと接続するときに使う端子です。接続した機器の音量は、エレクトーンのエクスプレッションペダルでコントロールできます。[インピーダンス10KΩ]

●MIC.(マイクロホン入力端子)(FE-50Mのみ)

マイクロホン接続して、ご自分の歌や司会者の声などをエレクトーンからだしたいときに使う端子です。[インピーダンス27KΩ]

●MIC.VOLUME(マイクロホンボリューム)(FE-50Mのみ)

FE-50Mにマイクロホン接続したとき、マイクロホンの音量をコントロールするつまみです。右に回すほど音量が大きくなりますので、適切な音量に調節してください。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。



電子楽器専用ヘッドホン(別売)
HP-50A(モノラル)・HP-50S(ステレオ)

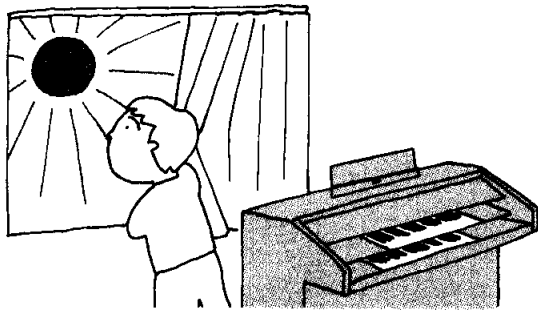
4 下鍵盤の音色もセット。

お好みの音色をセットしてください。

末永く安全にお使いいただくために

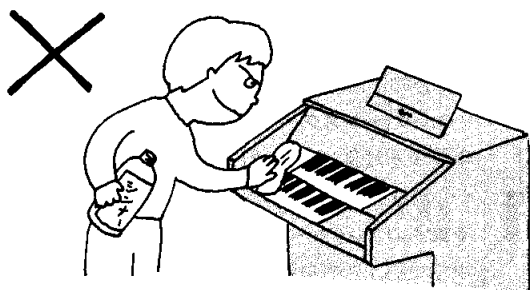
設置場所について

- 直射日光はさけてください。
- 暖房器具の近くには設置しないでください。
- 湿気やホコリの多い場所や、温度の特に低い場所もさけてください。
- 振動の少ない、平らな床面に設置してください。
- 壁から10cm以上離すようにしてください。壁が直接振動するのを防ぎます。



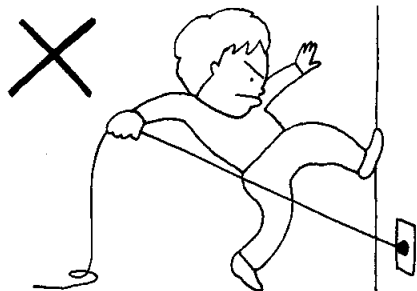
外装・鍵盤のお手入れは

- 外装や鍵盤のお手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。
- よごれがひどい場合は、水を少しふくませ、かたく絞った布で拭きとってください。
- シンナーやベンジンなどの溶剤は、鍵盤や外装をいためますので、絶対に使用しないでください。
- 外装の塗装は、ビニール製品と化学反応を起こすことがありますので、ビニール製のカバーなどはご使用にならないでください。



電源コードを大切に

- エレクトーン本体や椅子などで電源コードを踏みつけたり、足に引っかけてたりしないように注意してください。
- コンセントから抜くときは、電源コードを引っぱらないでください。
- 電源コードの継ぎ足しは危険ですからさけてください。



無理な力を加えないでください

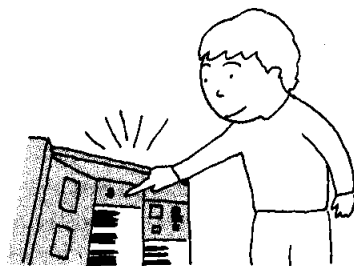
- ボタンやつまみ、スイッチ類に無理な力を加えることはさけてください。
- 椅子・譜面板などの取扱いでは、キズをつけないように注意してください。

セットの移動時には

セットを移動する場合には、接続コードのショートや断線を防ぐため、他の機器との接続コードを取りはずしてから動かしてください。

他の機器との接続について

トーンキャビネットなどを接続する場合、28ページを参照のうえ、正しく接続してください。また、スピーカー破損防止のため、機器接続の際はそれぞれの電源スイッチを切ってください。

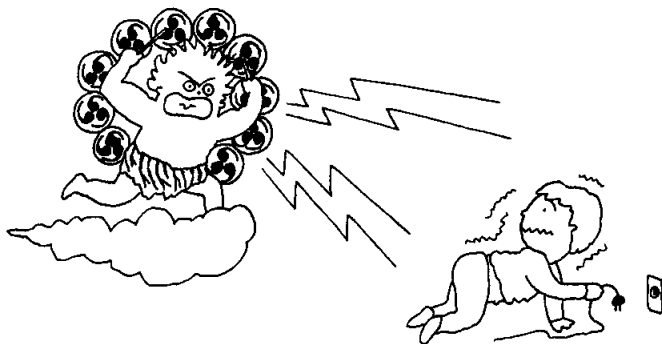


他の電気機器への影響について

このエレクトーンはデジタル回路を多用しているため、ごく近くでラジオやテレビなどの電気機器を同時に使用すると、雑音や誤動作の原因になることがあります。他の電気機器から充分離してご使用ください。

落雷に対する注意を

落雷などのおそれがあるときは、早めに電源コードをコンセントから抜いてください。



万一異常があったら

使用中に音がでなくなったり、異常なおいや煙がでた場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜き、お求めの販売店もしくは電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。

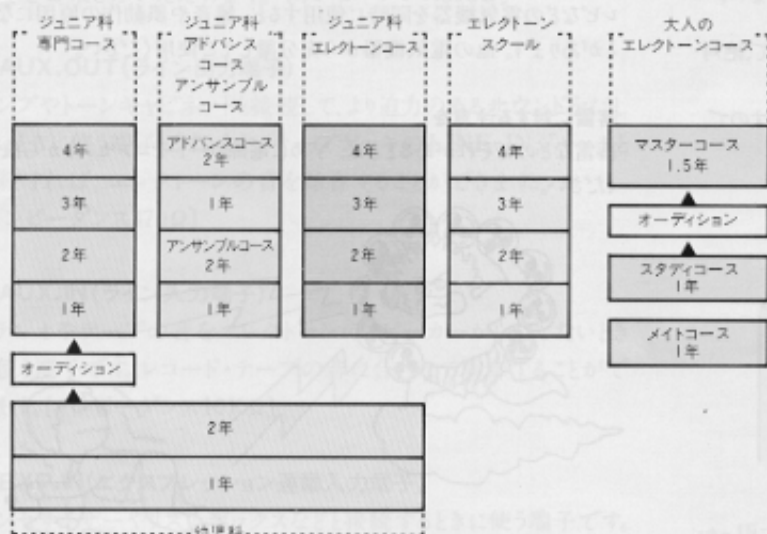
本書と保証書の保管について

本書をお読みにになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

エレクトーン教室のご案内



お子さまに正しい音楽教育をと考えのかたや、エレクトーンを自由自在に弾けるようになりたいというかたのために、ヤマハではエレクトーン教室を全国に開設しています。エレクトーン教室は、ご自宅や学校、お勤め先のすぐ近くにあり、どの教室でも《ヤマハ音楽教育システム》のカリキュラムによる指導を行っていますから、地区によって水準が異なるようなことはありません。エレクトーンをよりお楽しみいただくためにも、ぜひお近くのヤマハエレクトーン教室をご利用ください。



●幼児科

「きく・うたう・ひく・つくる」という実践を通じて、音楽の基礎を自然に楽しく覚えます。

●ジュニア科エレクトーンコース

幼児科を卒業した方を対象に、エレクトーンの演奏力と総合的な音楽力を指導します。

●エレクトーンスクール

小学生を対象に、エレクトーンを通じて音楽の基礎と豊かな創造力を養います。

●大人のエレクトーンコース

中学生以上の方を対象に、エレクトーンの演奏力と音楽力を身につける教室です。経験にあわせて3つのコースがあります。

エレクトーン出版物

ここに紹介した出版物以外にも、いろいろな曲集があります。くわしくはお買い上げになった販売店までお問い合わせください。

●ABC曲集

シングルフィンガープレイを中心にしたファミリー向け曲集。

●エレクトーンメトード

エレクトーン演奏の基礎を体系的に学べる教則本です。

●ピアノからエレクトーンへ

ピアノ経験者のために編集したテキストです。

●ひきながら学ぶエレクトーン和声

エレクトーンの伴奏づけの基礎をまとめています。

●レッツプレイエレクトーン

13級～10級の人のために編集されたサブテキストです。

●メロディーパレット

初級者向けにアレンジされた曲が収められています。

●エレクトーンレパートリーシリーズ

9～6級を受験する人のためのレパートリー曲集です。

●エレクトーンヒット50シリーズ

ポケットサイズで一番に50曲収めたメロディー譜曲集。

●エレクトーンファンファンファン

最新のヒット曲を中級者向けに編集しました。

●エレクトーンデュエット

レコードが付いたユニークな曲集です。

●ラブリーコレクション

ジャンル別に選曲した9～6級の人のための曲集。

●エレクトーン名曲アルバム

各グレード別に編集したレパートリー曲集です。

●ブレイクノートシリーズ

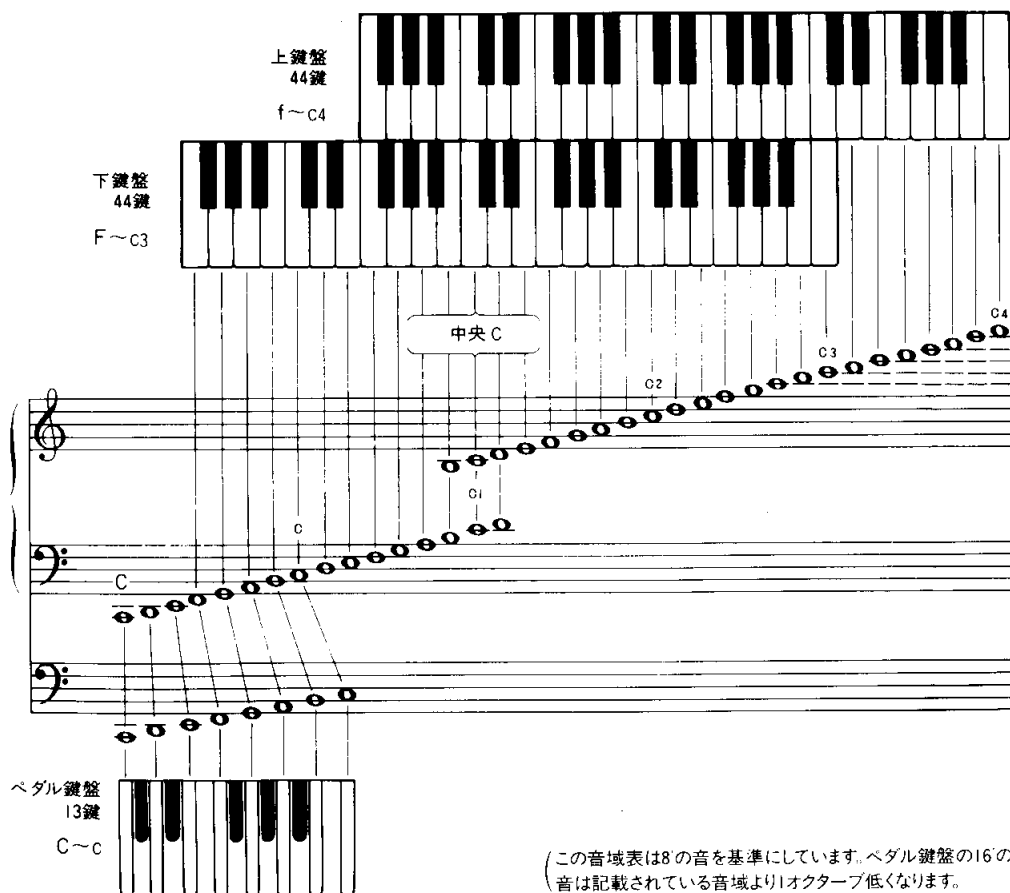
エレクトーンプレイヤー別にまとめたアレンジ曲集。

●エレクトーンクラシックシリーズ

クラシックの名曲をエレクトーン用にアレンジしました。

仕様

音域表



(この音域表は8'の音を基準にしています。ペダル鍵盤の16'の音は記載されている音域より1オクターブ低くなります。)

故障とお考えになる前に

次のような現象は故障ではありませんのでご注意ください。このような現象でサービスを依頼されますと、保証期間中であっても実費料金を申し受けますので、ご了承ください。

現 象	原 因 と 処 置
時々、ガリッとかポツンという雑音が入る。	近くで電気器具の電源をON/OFFしたり、故障したネオンサインや電気ドリルなどを使用している場合は、雑音の入ることがあります。原因と思われる機器から、なるべく離れたコンセントを使ってください。また、原因不明の場合は、お求めの楽器店あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ラジオやテレビ、無線などの電波が入る。	近くに大電力の放送局やアマチュアの無線局があるためです。どうしても気になる場合は、お求めの楽器店あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ラジオやテレビなどに雑音の入ることがある。	エレクトーンのすぐ近くにラジオやテレビを置いてあると雑音の入ることがあります。なるべく離してご使用ください。
音が周囲の物を共鳴させてビビる。	エレクトーンの音は持続音が多いため、周囲の戸棚や窓ガラスなどの器物を共鳴させることがあります。気になる場合は、共鳴物を取り除くか、音量を小さくしてください。
選んだ音色によって、鍵盤位置による音量のばらつきがある。	一般に電子楽器では、音色を変えるという本質的な要素をもつため、音色による各鍵盤の音量のばらつきをなくすことは非常に困難です。エレクトーンでは、どの音色でも演奏上問題のないように設計、調整されています。また、音量や音色は、エレクトーンの設置場所の状態や聞く位置などによって大きく異なることがあります。どうしても気になるときは、お求めの楽器店あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ペダル鍵盤ではピッチが高く、上・下鍵盤の高音部では低く感じる。	特にピアノと比較した場合に感じますが、ピアノでは倍音構成が複雑なため、高音、低音の調律は実音での調律ができず、倍音を聞いて調律しています。エレクトーンの場合は逆に実音で調律していますから、ピアノとエレクトーンでは本質的に違うわけです。
割れるような感じや、ノイズが入るような感じのする音色がある。	主に管楽器系の音色で感じるがありますが、これは実際の楽器音の特徴を再現するため、特に組み込まれた音色効果です。ブラスの振動やプレスノイズなど、よりリアルな特徴をそなえた楽音が得られます。
ペダル鍵盤を同時に2音おさえても1音しかでない。また、アッパー/ロワーカスタムボイス音色は、同時に2音以上おさえても1音しかでない。	演奏上、設計上の理由から、ペダル鍵盤およびアッパー/ロワーカスタムボイス音色では、それぞれ同時に1音しか発音しないようになっています。同時に2音以上おさえた場合は、高音が優先されます。
上・下鍵盤をあわせて同時に11音以上おさえると、でない音がある。	このエレクトーンでは、上・下鍵盤を11音以上同時におさえると発音しない音があります。ただし、上・下鍵盤あわせて10音まで同時に発音しますので、通常の演奏には支障ありません。なお、オートリズムとロワーメモリーを同時に使っているときの発音数は、下鍵盤が最大4音まで、上鍵盤が最大6音までになります。
上・下鍵盤の音色を選んで、音量をセットしても、選んだ音色がでてこない。	アンサンブルセクションのなかで必要なボタンが入っていないためです。上・下鍵盤では音色の組み合わせやキャンセルが素早く行えるよう、アンサンブルのボタンで集中的にコントロールするようになっています。必要な音色のボタンを入れてください。(9ページ参照)
アッパータッチトーンのボタンを入れて上鍵盤を強くおさえても、カスタムボイスの音量・音色があまり変化しない。	タッチコントロールによる音量・音色の変化する度合は、それぞれの音色にふさわしようにプリセットされています。したがって、音色によってはあまり変化しないものがあります。(8ページ参照)

現 象	原 因 と 処 置
パネル面でセットした上・下鍵盤の音色とはちがう音色がでてくる。	ゼネラルプリセットのボタンが入っているためです。パネル面でセットした音色をだしたいときは、必ずゼネラルプリセットのボタンをOFFにしてください。(10ページ参照)
鍵盤をレガートに弾いたとき、アタック音またはディレイビブラートが最初の音にしかかからない。	上鍵盤のコンビネーション音色に組みこまれているアタック音、およびディレイビブラートは、鍵盤をレガートに弾いた場合、最初の音に対してだけかかるように設計されています。ただし、カスタムボイスへのディレイビブラートはすべての音にかかります。
オートリズムのボタンを一緒に2つセットしても、1つのリズムしかでてこない。	リズムを組み合わせるときは、上段同士または下段同士のボタンをセットしてください。上・下のリズムは組み合わせられません。
デジタルディスプレイのテンポ表示の数字が細かく変わらない。	操作性を高めるため、テンポつまみでセットするリズムのテンポは、実際の演奏に支障のない範囲で、あらかじめ決められたものになっています。
シングルフィンガーコードで下鍵盤の高い方をおさえても低い方をおさえても、音程が変わらない。	シングルフィンガーコードでは定められた1オクターブの中の音がでるようになっています。同じ音名であれば、下鍵盤のどの位置をおさえても同じ音程で和音がでてきます。
シングルフィンガーコードを使っているとき、カスタムボイスの音色が下鍵盤からでてこない。	シングルフィンガーコードを使っているときは、アッパー/ロウーカスタムボイスの音色が下鍵盤からはでないようになっています。
下鍵盤、あるいはペダル鍵盤が鳴りっぱなしになる。	リズムがスタートしているとき、オートベース/コードセクションのロウーメモリーを入れると、下鍵盤から指を離しても音が鳴り続けます。また、オートリズムとオートベース/コードを使っているときペダルメモリーを入れると、ペダル鍵盤の音が鳴り続けます。(23ページ参照)
リズムックコードをセットしても自動的に音がきざまれない。 オートアルペジオをセットしてもアルペジオがでてこない。	オートリズムがスタートしていないためです。リズムックコード、オートアルペジオはリズムに連動して動きますから、必ずオートリズムをセットし、スタートさせてください。また、オートベース/コードのマルチベースを使うときもオートリズムをスタートさせてください。(20、25ページ参照)
上鍵盤と下鍵盤を同時におさえても、プレイアシストによるハーモニーの音がでてこない。	ハーモニーの音色がセットされていないためです。アッパーコンビネーション/オーケストラまたはアッパーアンサンブルボイスの音色を選び、音量をセットしてください。また、上鍵盤の低音域でメロディーを弾くと、ハーモニーの音がでてこない場合があります。(26ページ参照)

サービスと保証について

保証

エレクトーンのエレクトーン保証は、保証書の裏面に記載の規定によりご購入から満1ヵ年です。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。また保証は日本国内のみ有効といたします。

保証書

エレクトーン納入の際、保証書もお渡しいたしますので大切に保管くださるようお願いいたします。

また、納入調整サービスの際には納入調整者が保証書内に必要事項記入の上発行いたしますので記載事項をご確認ください。

保証書はよくお読みください。

保証書は大切にしましょう！

保証書は弊社がエレクトーンをご購入いただいたお客さまにご購入の日から向う1ヵ年間の無償サービスをお約束申し上げるものですが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただくことになります。万一の場合に備えて、いつでもご提出いただけますように充分ご配慮の上で保管してください。(エレクトーンのイスの裏にあります保証書ホルダーをご利用ください)また、保証期間が切れましてもお捨てにならないでください。後々のサービスに際しての機種別の判別やサービス依頼店の確認など便利にご利用いただけます。

納入調整サービス

エレクトーンをお納めさせていただきますと、販売店からエレクトーンのご説明かたがたお納めしたエレクトーンの様子を最良状態にするよう点検調整にお伺いいたします。その際、納入調整サービスカードを提示いたしますので、カード裏面の点検調整事項について、ご確認・ご捺印のうえ、カードを納入調整者にお渡しください。

お求めのエレクトーンについてご不明の点およびお聞きになりたい点がございましたらその節にお申しつけくださるようお願い申し上げます。

保証期間中のサービス

1. 保証期間中に万一故障が発生した場合にはヤマハ特約楽器店、小売楽器店にご連絡いただきますと販売店またはヤマハのエレクトーン技術者が直ちに調整修理にお伺いします。

2. 保証書は、サービスにお伺いしたときに今後の製品改良の貴重な資料とするため技術者がお預りさせていただきます。お預りした保証書は、弊社支店に送られ、記録した後各支店から直接お客さまにご返送申しあげます。この間、約1週間～10日間程度を要しますがご心配なくお待ちくださるようお願い申し上げます。

3. 遠方に移転される場合は、事前にお買上げ楽器店あるいは弊社支店にご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引き続き保証期間中のサービスを責任をもって行うよう手続きいたします。

保証期間後のサービス

満1ヵ年の保証期間が切れますとサービスは有料となりますが、引き続き責任をもってサービスをさせていただきます。また、修理可能期間は10年となっております。なお、補修用性能部品(製品本来の機能を維持する為に必要な部品)の最低保有期間は8年となっております。保証期間以後の移転の場合も保証期間中と同様にご連絡いただきましたら、移転先の楽器店をご紹介します。

サービスのご依頼

●ご依頼の前に

1. コンセントに電気が来ているかどうか、電気製品を接続してお確かめください。

2. 電話でのご依頼の際、再度、故障かどうかの確認をさせていただく場合がありますので、ぜひご協力をお願いします。

(32～33ページの「故障とお考えになる前に」を参照)

●エレクトーンの様子は詳しくお知らせください。

1. できれば実際にエレクトーンをお弾きになっていらっしゃる方に様子をお聞かせ願えれば、あらかじめ用意する部品などの見当が付き、スムーズにいきます。

2. 時々調子のおかしくなるような場合には、お手数でもその状態をできるだけ詳しくお知らせください。たとえば、●夜だけ音が小さい ●ある時間だけ雑音がでる ●エレクトーンの音をださなくても、スイッチを入れるだけで雑音がでるなどの場合です。

3. エレクトーンの種類など、サービスご依頼のエレクトーンに関する詳細は、保証書をご覧になってお知らせください。使用部品が製造時期やモデルによって異なる事もありますので、早く確実にサービスさせていただくためにぜひお願いいたします。

●これだけはお知らせください。

ご住所、お名前、ご連絡先、ご購入店、お買上げ年月日、機種名(モデル名)……保証書に記載されております。

症状……なるべく具体的に。

サービスのお約束について

1. お仕事の関係で、昼間ご不在のお客様や留守がちのお客様は、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させていただきます。

2. 万一お約束した日時がご都合の悪い時には、できるだけ早くサービスをご依頼されたお店にご連絡ください。

3. お店にサービスをご依頼されたにもかかわらず、日時が経過してもなおサービス員がお伺いしない場合は、お手数でも右記の電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。責任をもって処理させていただきます。

YAMAHA電気音響製品サービス拠点

全国のヤマハ特約店と下記電音サービスセンター、サービスステーションが責任をもってアフターサービスを行っております。

〔お客様ご相談窓口・お預り修理窓口〕

東京電音サービスセンター

☎(044)434-3100

〒211 川崎市中原区木月1184

新潟電音サービスステーション

☎(0252)43-4321

〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F

大阪電音サービスセンター

☎(06)877-5262

〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内

四国電音サービスステーション

☎(0878)51-7777 (0878)22-3045

〒760 高松市丸亀町8-7 高松店内

名古屋電音サービスセンター

☎(052)652-2230

〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 日本楽器名古屋流通センター

九州電音サービスセンター

☎(092)472-2134

〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4

広島電音サービスセンター

☎(082)874-3787

〒731-01 広島市安佐南区祇園町西原2205-3

北海道電音サービスセンター

☎(011)781-3621

〒065 札幌市東区本町1条9-3

仙台電音サービスセンター

☎(0222)96-0249

〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F

浜松電音サービスセンター

☎(0534)56-9211

〒432 浜松市東伊場2-13-12

〔本 社〕

営業技術課 電音サービスセンター

☎(0534)65-1111

〒430 浜松市中沢町10-1

●アタック音

立ちあがりのはやい減衰音で、コンビネーション音色には、アタック音が組みこまれているものがあります。

●アッパー

「上」という意味です。エレクトーンでは主に上鍵盤関係のことをさします。

●アッパータッチトーン(8ページ)

タッチコントロール機能のスイッチです。このボタンを入れると、上鍵盤のタッチで、カスタムボイスの音量と音色を微妙にコントロールできます。

●アンサンブル(9ページ)

上・下鍵盤の音色グループを呼びだす働きをするセクション。一カ所で音色グループのON/OFFをコントロールでき、演奏中でも音色の変更が素早くできます。

●アンサンブルボイス(6ページ)

バイオリンアンサンブルや人間のコーラスの響きなどがプリセットされている音色グループで、上・下鍵盤に用意されています。

●WM(ウェーブメモリー)音源方式

実際の楽器音の波形をデジタル技術によってメモリーした音源方式です。

●8ビート(16ページ)

ロックの基本的なリズム。オートリズムには、2種類の8ビートがあります。

●エキストラパーカッション(19ページ)

選んだリズムパターンに、打楽器音をプラスする機能です。

●EXP.IN(28ページ)

シンセサイザーやリズムボックスなどを接続する端子です。

●エクスプレッションペダル(3ページ)

演奏しながら音量をコントロールし、音に強弱の表情をつけるペダルです。

●ABC

エレクトーンでは、オートベース/コード(Auto Bass Chord)のことを頭文字をとってこう呼ぶことがあります。

●エフェクト

トレモロ、シンフォニック、ビブラート、サステインなどの「効果」のことです。

●FM(エフエム)音源方式

周波数変調によって複雑な倍音成分を取りだし、一瞬一瞬でデジタル演算処理をする音源方式です。

●AUX.IN(28ページ)

レコードやテープの音をエレクトーンから聴きたい時、ステレオなどを接続する端子です。

●AUX.OUT(28ページ)

テープに録音したり、外部スピーカーから音を聴きたい時に接続する端子です。

●オクターブ

ある音に対して、8度の音程をもつ音をさします。したがって音名は同じです。

●オーケストラ(4ページ)

コンビネーション/オーケストラの音色グループのうち、ストリングス、ブラス、リードなどオーケストラで使われる楽器の音色をさします。

●オートアルペジオ(25ページ)

アルペジオとは和音を分散して連続的に奏でる奏法のこと。エレクトーンでは、リズムに連動したアルペジオが自動的に得られます。

●オートバリエーション(18ページ)

選んだリズムパターンを、一定の小節ごとに変化させる機能です。

●オートベース/コード(21ページ)

下鍵盤の和音(コード)伴奏とペダル鍵盤のベース伴奏がリズムに合わせて自動的に演奏される機能です。

●オートリズム(16ページ)

エレクトーン演奏のバックに、ワルツやスイングなどのリズムを自動的に流す機能です。

●オルタネイティングベース

音階の1度と5度の音を交互にだす基本的なベース奏法のこと。オートベース/コードを使えば自動的に得られます。

●音色(おんしょく)

いろいろのことです。エレクトーンボタンには、ストリングス、ピアノ、フルートなどの音色名がついていますが、これは表示されている楽器の音をイメージしてつくられた“音色”です。

●音程

音と音との間隔のこと。同じ高さの音を1度音程、隣の音を2度音程、オクターブ上の音は8度音程です。

●音名

音の高さと呼びあわす名前のこと。日本ではハニホヘトイロ、イタリアではドレミファソラシ、アメリカやイギリスではCDEFGABを使います。

●音量

音の強さ、大きさのこと。エレクトーンでは、ボリュームのレバーで各音色グループの音量をコントロールすることができます。

●カスタムA.B.C.(24ページ)

オートベース/コードのボタンのひとつです。これを使うと、下鍵盤とペダル鍵盤の自動伴奏が切りはなされます。

●カスタムオンリー(13ページ)

アッパー/ロワーカスタムボイスの音色だけにビブラートをかけたい時に使うボタンです。

●カスタムボイス(7、11ページ)

カスタムというのは「注文してつくった」という意味です。いろいろな楽器音が単音で得られる音色グループで、上・下鍵盤用とペダル鍵盤用のものとがあります。FM音源方式の採用によって、音質はとてりアルです。

●グライド(15ページ)

上・下鍵盤の音を半音さげる効果です。フットスイッチをおしている間、音が半音さがり、はなすと徐々に音程がもどります。

●減衰音

鍵盤をおさえ続けても、途中で自然に消えていく音です。スペシャルプリセットのほとんどは減衰音です。

●コズミック(4、7ページ)

さまざまなイメージサウンドが得られる音色で、オーケストラやカスタムボイスに用意されています。

●コードネーム(22ページ)

和音の略記法のひとつで、和音の根音をアルファベットで表わします。Cはシーメジャー、Amはエーマイナー、G7はジーセブンスという和音です。

●根音(22ページ)

和音のもとになる音で、ドミソの和音ならドが根音です。シングルフィンガーコードで伴奏をつける時は、この根音をおさえます。

●コンビネーション(4ページ)

「組み合わせ」という意味で、エレクトーンでは、あらかじめ組み合わせられたオルガン系の音色のことをいいます。

●サステイン(14ページ)

鍵盤から指や足をはなしたあと音に余韻をつけ、自然に消えていくようにする効果です。

●持続音

鍵盤をおさえ続けている間、ずっと持続してでてくる音で、エレクトーンのほとんどの音色はこの持続音です。

●16ビート(16ページ)

16分音符を基本としたリズムで、ロックやフュージョン、ジャズなどの音楽で使います。

●シングルフィンガーコード(21ページ)

オートベース/コードのボタンのひとつです。下鍵盤で和音の根音をおさえることで、和音とベース音が自動伴奏されます。

●シンクロスタート(17ページ)

シンクロとは「時を同じくする」という意味です。シンクロスタートを使うと、伴奏と同時にリズムをスタートさせることができます。

●シンフォニック(12ページ)

複数の楽器で合奏しているときのような、ひろがりのある響きにする効果です。

●スイング(16ページ)

ジャズの標準的なリズムです。

●スタッカート(・)

音を短く切って軽快に演奏するように指示する記号です。

●ストリングス(4、6ページ)

弦楽器のこと。オーケストラやアンサンブルボイスにこの音色があります。

●スペシャルプリセット(5ページ)

ピアノやギターの音など、主に減衰音がプリセットされている音色グループで、上・下鍵盤に用意されています。

●スラー(—)

音程のちがう2つ以上の音符をレガート(なめらか)に演奏することを指示する記号です。

●セブンスコード(22ページ)

三和音に7度の音を加えた和音です。シングルフィンガーコードでは、和音の根音とそれより左側の白鍵をおさえることで得られます。

●ゼネラルプリセット(10ページ)

あらかじめ組み合わせられた音色がセットされているボタンです。上・下鍵盤の音色と音量がボタンひとつで得られます。

●ソリッドギター(20、5ページ)

かたい音質のエレクトリックギターで、下鍵盤のスペシャルプリセット音色のひとつです。

●タイ(一)

同じ音程の音符を指をはなさずに続けて演奏するように指がする記号です。

●ダ・カーポ(D.C.)

曲の最初にもどることを指示する記号です。

●タッチコントロール(8ページ)

鍵盤をおさえる力の強弱によって、カスタムボイスの音量と音色を微妙にコントロールする機能です。

●ダルセーニョ(D.S.)

※記号までもどることを指示する記号です。

●中央C

鍵盤のほぼ中央にある音で、高音部譜表の下第一線上の音になります。

●ディスク(16ページ)

ディスクダンス用のリズムで、シンプルなビートとわかりやすいアクセントが特徴です。

●ディレイビブラート(13ページ)

鍵盤をおさえてから、少しおくらせてビブラートがかかる効果です。

●デジタルディスプレイ(17ページ)

リズムの速さを、4分音符が1分間に打つ数で表示します。

●デブス(13ページ)

「深さ」という意味で、ビブラートでは音のふるえ方が深さをコントロールすることができます。

●テンポランプ(17ページ)

オートリズムがスタートしている時、小節の1拍目ごとに点灯するランプです。

●テンポ(17ページ)

速度のことで、オートリズムではリズムの速さをテンポのつまみでコントロールします。

●トレモロ(12ページ)

音をうねらせ、豊かなひろがりをもたせる効果です。

●トレモロスピード(12ページ)

トレモロ効果を使っている時、うねりの速さをコントロールするつまみです。

●ニーレバー(14、27ページ)

エレクトーンの棚板下にあるレバーで、右ひざを右に動かして操作します。演奏中に必要とところでサステインやプレイアシストを得ることができます。

●ノーマル(24ページ)

「普通の」という意味で、オートベース/コードの自動伴奏をキャンセルするボタンです。

●バウンス(16ページ)

ジャズのリズムのひとつで、ビッグバンドの曲などに適しています。

●ハーブシコード(5ページ)

チェンバロとも呼ばれる16～18世紀ごろの鍵盤楽器で、スペシャルプリセット音色のひとつです。

●バラード(16ページ)

スイングにアフタービートのかかったリズムで、スローなポピュラーに適しています。

●バランス(17ページ)

リズムを構成している打楽器音の音量バランスをコントロールします。

●ビブラート(13ページ)

音をこきざみにふるわせ、うるおいをもたせる効果です。

●フィンガードコード(24ページ)

オートベース/コードのボタンのひとつです。下鍵盤で和音をおさえると、和音伴奏とともにベース伴奏が自動的に得られます。

●フットスイッチ(15、19ページ)

エクスプレッションペダルの左横にあるスイッチで、左におして操作します。グライド効果、リズムストップ、ブレイクバリエーションの3つの使い方ができます。

●プラス(4、5ページ)

金管楽器のことで、オーケストラやスペシャルプリセットにこの音色があります。

●FWM(フルウェーブメモリー)音源方式

実際の打楽器音の波形をデジタル録音によって収録し、メモリーした音源方式で、リズム音の音源に採用しています。

●プレイアシスト(26ページ)

「演奏を補助する」という意味で、メロディーにハーモニーを自動的に重ねる機能です。

●ブレイクバリエーション(18ページ)

選んだリズムパターンを、一時的に変化したパターンへ切りかえる機能です。

●ペダル(11ページ)

エレクトーンでは、主にペダル(足)鍵盤関係のことをさします。

●ペダルメモリー(23ページ)

鍵盤をはなしたあとも、ベース伴奏が自動的に演奏される機能です。

●ヘッドホンジャック(28ページ)

ヘッドホンを接続する端子です。モノラル、ステレオのどちらでも接続できます。

●ボイス

「声」という意味ですが、エレクトーンでは音色と同じような意味に使います。

●ボーカル(6ページ)

人間のコーラスの響きをイメージしてつくった音色で、アンサンブルボイスにあります。

●マイナーコード(22ページ)

短調の和音で、Am、Emのように表わします。シングルフィンガーコードでは、和音の根音とそれより左側の黒鍵をおさえることで得られます。

●マスターボリューム(3ページ)

エレクトーン全体の音量をコントロールするつまみです。

●マニュアル

「手」のことで、エレクトーンでは上・下鍵盤のことをいいます。

●マニュアルバランス(15ページ)

上鍵盤と下鍵盤の音量のバランスをコントロールします。

●マルチベース(23ページ)

オートベース/コードの自動伴奏のうち、ベース伴奏のパターンを変化させる機能です。

●メジャーコード(22ページ)

長調の和音のことで、C、Gというように表わします。シングルフィンガーコードでは、和音の根音をひとつおさえるだけでメジャーコードが得られます。

●メロディーオンコード(26ページ)

上鍵盤で弾くメロディーにハーモニーを自動的に重ねる機能で、1と2の2種類があります。

●リズムックコード(20ページ)

下鍵盤をおさえ続けるだけで、下鍵盤のスペシャルプリセット音色をリズムに連動して自動的にきざませる機能です。

●リード(4ページ)

木管楽器やアコーディオンなどの音色で、オーケストラに用意されています。

●リバーブ(15ページ)

大きなホールで演奏しているような残響をつける効果です。

●臨時記号(♯、♭、♮)

音の高さを一時的に変えることを指示する記号です。半音あげる♯(シャープ)、半音さげる♭(フラット)、もとの高さにもどす♮(ナチュラル)などがあります。

●レガート(legato)

なめらかに演奏するように指示する記号です。

●レジストレーション

演奏にあたって、その曲想に合った音づくりをするためにエレクトーンの音色や効果などをセットすることです。

●ロワー

「下」という意味です。エレクトーンでは主に下鍵盤関係のことをさします。

●ロワーメモリー(23ページ)

下鍵盤をはなしたあとも、下鍵盤の伴奏が自動的に演奏される機能で、オートリズムに連動して働きます。

●和音

音程のちがう音が2つ以上同時に響いたものをいいます。ドミソなどの三和音が基本になりますが、さまざまな種類があります。

本 社／〒430 浜松市中沢町10-1
TEL. 0534(65)1111

東京支店／〒104 東京都中央区銀座7-9-18/ノパールビル
TEL. 03(572)3111

大阪支店／〒542 大阪市南区南船場3-12-9/心齋橋プラザビル東館
TEL. 06(251)1111

名古屋支店／〒460 名古屋市中区錦1-18-28
TEL. 052(201)5141

九州支店／〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL. 092(472)2151

北海道支店／〒064 札幌市中央区南十条西1-4/ヤマハセンター
TEL. 011(512)6113

仙台支店／〒980 仙台市大町2-2-10/住友生命仙台青葉通ビル
TEL. 0222(22)6141

広島支店／〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
TEL. 082(244)3744

浜松支店／〒430 浜松市鍛冶町321-6
TEL. 0534(54)4116

エレクトーン®は当社の登録商標です。

